

令和2年度

学校評価計画



徳島県立徳島北高等学校

保護者の皆様におかれましては、日頃から本校の教育活動に格別の御支援をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、本年度の学校評価計画を作成しましたので御覧ください。これは、「学校経営の基本方針」及び「本年度の重点目標」に沿って各担当がそれぞれの分野において計画を立てたものの抜粋です。本年度も、この計画に従って全教職員が協働して教育活動に取り組んでまいります。また、年度末にはその取組についての評価を行い、結果については公表する予定です。

なお、評価の作成につきましては、アンケート調査などを通じて保護者の皆様の御意見をお聞かせいただこうと考えていますので、御協力くださいますようお願いいたします。

令和2年5月22日

徳島県立徳島北高等学校長

- 「学校評価」とは -

各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、めざすべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ることをねらいとするものです。

- 「学校経営の基本方針」 -

生徒がはつらつと活動する活力ある学校づくりと保護者・地域社会から信頼される学校づくりに取り組む、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を身に付けることができる教育の実現に努める。

- 「本年度の重点目標」 -

- (1) 自ら学ぶ姿勢と自主的・自律的な行動力を育成する。
- (2) 人権を尊重する豊かな心を育成し、好ましい人間関係を築かせる。
- (3) 授業の工夫・改善と充実に努め、確かな学力を身に付けさせる。
- (4) 生徒一人一人の個性や創造性を伸長させて、進路希望の実現をめざす。
- (5) 国際的視野を持ち、地域社会に貢献できる人材を育成する。

1 生活習慣・交通安全指導 (生徒課)

重点目標	評価指標	活動計画
1 生活習慣の確立を図り、健全な生活態度を育成する。	①頭髪・服装の違反者を減少させ、再点検指導生徒の割合を1.0%以内にする。 ②遅刻者の数を昨年度より3.0%減少させる。 ③教員による登校指導を月1回、生徒による「あいさつ運動」を学期に1回実施する。	①月初めのクラス単位の服装頭髪点検、学期初めの学年一斉指導を実施する。常日頃から清潔感のある制服の着こなしができるように、学年団と連携・協力をしながら常時指導を徹底する。 ②遅刻指導週間を実施するとともに、多遅刻生徒の指導を徹底する。 ③生徒会や生活委員と協力しながら自発的な挨拶を喚起する。
2 交通ルールを遵守させ、安全意識の向上を図る。	①自転車交通事故数(昨年度28件)を10件以下にさせる。 	①(ア)登校指導を月1回以上、徳島北署やPTAとの合同指導を年3回実施する。 ①(イ)交通事故の状況について、教職員・生徒・保護者の共通理解が図れるよう、情報を提供する。 ①(ウ)交通安全講話を実施する。
3 携帯電話の安全な使い方を通して、情報モラルの育成を図る。	①携帯電話の安全な使い方についての講演会を年1回以上実施する。	①各関係機関と連携し、携帯電話安全教室を行い、情報社会におけるモラルを身につけさせる。 ②「人権教育ホームルーム活動」や「情報」の授業においても情報モラル教育を推進する。

2 人権教育 (人権教育課)

重点目標	評価指標	活動計画
1 人権ホームルーム活動の他、委員会活動や日々の活動など様々な機会をとらえて生徒の人権意識の高揚を図り、啓発活動に努める。	①「人権意識が高まった」と答えた生徒の割合を80%以上にする。 ②「人権委員会だより」を読んでいる生徒の割合を65%以上にする。	①人権ホームルーム活動や学校行事等で、自分の意見を発言し、他人の意見もしっかり聞くことができるなど、生徒に主体的に参加・体験をさせる。 ②「人権委員会だより」を生徒主体で作成し、ホームルーム活動などを利用して、人権委員に記事内容の要旨をクラスで紹介させるなど生徒主体の活動を活発にする。
2 全職員でいじめ防止をはじめとする人権教育の充実に取り組む。	①「いじめは人間として許されない」と100%の生徒が認識している。 ②「学校は好ましい人間関係の構築のため学校行事やホームルーム活動・授業に真剣に取り組んでいる」と答えた生徒の割合を90%以上にする。	①教育活動全体を通じて、お互いの人格を尊重し合える校内環境をつくるため、人権ホームルーム活動だけでなく、学年別講演会などを実施する。 ②生徒の日常の言動と行動に注意を払い、不適切な場合は指導する。また、生徒一人一人を尊重し、面談等を実施していじめ防止に取り組む。

3 学校行事・生徒会活動・部活動 (特別活動課)

重点目標	評価指標	活動計画
1 学校行事(学校祭・球技大会等)の活性化を通して、生徒の自主的・自律的な行動を育成する。	①学校評価アンケートにおいて、生徒一人一人が自己実現の場として学校行事を位置付け、「自主的・積極的に取り組むことができた」と回答した生徒の割合が85%以上である。 ②学校評価アンケートにおいて、「学校行事や生徒会行事には、生徒の意見が取り入れられている」と回答した生徒の割合が70%以上である。	①生徒会役員が中心となり各行事計画をたて、全校生徒が自己の役割や責任を自覚し、生徒の意見ができるだけ計画に反映できるようにする。 ②各行事の事前・事後にアンケートを実施し、生徒自身に自らの取組についての状況を把握させ、今後の活動に生かせるようにする。
2 ホームルームや部活動における友好的な人間関係の構築を中心に、豊かな心を育成する。	①学校評価アンケートにおいて「あなたは、学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取り組み、友好的な人間関係を築くことができた」と回答した生徒の割合が85%以上である。 ②教員及び保護者において、生徒が「望ましい人間関係を構築できている」と回答した割合が90%以上である。	①各ホームルームでの人間関係を深め、生徒会や部活動での学年の枠を超えた人間関係も構築し、豊かな心を育成する。 ②ホームルーム担任や部活動顧問という立場で、生徒の人間関係をよく観察し適切な方向に導けるようにする。
3 部活動の活性化を通して、生徒一人一人の個性や創造性を伸ばさせ、何事にも積極的に取り組む態度を育成する。	①学校評価アンケートにおいて、生徒が「部活動は、学校生活を充実させるものとなっている」と回答した割合が85%以上である。 ②教員及び保護者においても、「部活動は、学校生活を充実させるものとなっている」と回答した割合が90%以上である。	①新入生対象の部活動紹介を充実させる。 ②部活動の活動時間を遵守し、また適切な休養日を設定するなど、各所で学業との両立が実現できるよう工夫する。
4 国際的視野を持ち、国際社会や地域社会に貢献する姿勢を育成する	①地球市民講座において事後アンケートを行い「国際的視野を持つことができた」と回答した生徒の割合が85%以上である。	①地球市民講座が充実したものになるよう、国際交流課とも連携しながら計画する。 ②生徒会やJRC・ボランティア部などを中心に、さらに地域や社会貢献に

る。	②生徒会主催行事あるいは部活動において地域や社会貢献に通じる活動を年3回以上計画する。	通じる活動に積極的に取り組む。
----	---	-----------------

4 学力向上・進路指導・キャリア教育 (進路課)

重点目標	評価指標	活動計画
<p>1 主体的な学習習慣と確かな学力の育成を図る。</p> <p>(1) 家庭学習の習慣化を図る。</p> <p>(2) 確かな学力を身につけさせる。</p> 	<p>① 平日の家庭学習(塾等での学習を含む)が1時間以上の生徒を90%以上にする。また、休日の家庭学習(塾等での学習を含む)が「(学年)+1」時間以上の生徒を80%以上にする。</p> <p>② 「午後9時までに家庭学習を始める」習慣が身についている生徒の割合を70%以上にする。</p> <p>③ 平日のスマートフォン使用時間が2時間以内の生徒の割合を80%以上にし、学習時間の確保につなげる。</p> <p>④ 「学校の授業内容を理解している」と回答した生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>④ 1, 2年生の学年単位で、補習の出席率を95%以上にする。</p> <p>⑤ 校外模試における各科目の平均点について、校内平均点が全国平均点以上となるようにする。</p> <p>⑥ 教員の教科指導研修会への参加率を高め、教科会等を通じた情報の共有を拡充する。</p>	<p>①②③生活記録表や生活実態調査を通して、現状の把握に努める。家庭学習が不足している生徒には担任が面談を実施し、原因の解明と改善を図り、具体的なアドバイスを行う。また進路説明会等で、家庭学習の現状とその重要性を保護者に認識してもらい、積極的なサポートを依頼する。</p> <p>④ 「予習」「授業」「復習」の学習スタイルを確立させ、課題や確認テストを実施し、授業内容の理解とその定着を図る。</p> <p>⑤ 補習に参加することの重要性を繰り返し指導する。遅刻・欠席が目立つ生徒には、担任、学年主任と連携し、継続的および段階的に指導を行う。</p> <p>⑥ 校外模試実施後に訂正ノートを提出させるなど、誤答箇所の見直しをさせる。また教科会で模試の検討を行い、事前と事後の対策を練る。</p> <p>⑦ 校外における教科指導研修会の情報を周知し、事後は教科会と資料の閲覧を通して情報の共有化を行う。</p>
<p>2 キャリア教育を推進し、早期に進路目標を設定させ、主体的に自分の進路を決定させる。</p>	<p>① 1, 2年次にオープンキャンパスや看護体験、大学の講座、または体験授業等の活動に1回以上参加した生徒の割合を85%以上とする。</p> <p>② ポートフォリオを利用し、校内外で取り組んだ活動の振り返りを行う生徒の割合を100%とする。</p> <p>③ 2年生の11月末の進路調査で、「進路目標が明確になっている」と回答した生徒の割合を100%とする。</p>	<p>① あらゆる機会を通じて、「将来の自分の生き方」を考えさせるとともに、体験的活動の情報提供に努め、2年生終了までには必ず1回は参加させる。</p> <p>② ポートフォリオの意義とその利用方法を周知し、振り返りと記録を徹底させる。</p> <p>③ 生徒や保護者に進路情報を提供し、各自の進路目標を設定させ、その実現に向けて主体的に学習する態度を育成する。また、「若楠」や「進路ニュース」を活用し、進路意識の高揚を図る。</p>
<p>3 地域社会に貢献できる人材の育成に向けてキャリア教育を推進するとともに、生徒の個性や創造力を伸ばさせて、進路希望を実現させる。</p>	<p>① 就職ガイダンスや公務員セミナーなどの体験的活動を通して、主体的に自ら考える力を育て、就職を希望する生徒全員が、希望する進路を実現できる。</p> <p>② 就職希望者や保護者と定期的に面談を行い、2学期末までに就職未決定者0名を実現する。</p>	<p>① 望ましい職業観・勤労観の育成に向け、職業別説明会(1年)、公務員セミナー、就職ガイダンス(2年, 3年)等の体験活動により、職業理解や働く意義を学ばせる。</p> <p>② 卒業後就職したい仕事を自らが見つけ、その目標に向け、継続的に努力し、自主的な行動力が身に付くように導く。</p> <p>③ 企業就職希望者と早い時期から面談を重ね、希望の業種や職種を絞り込み、希望する企業から求人を得られるよう、精力的に職場開拓を行う。</p> <p>④ 公務員希望者には、公務員試験対策の専門家を学校に招き講習会を実施し、社会性の確立を目指す。</p> <p>⑤ 就職・公務員模試を年間6回実施し、進路を実現する確かな学力の向上を図る。</p>

5 心とからだの健康 (保健・教育相談課)

重点目標	評価指標	活動計画
<p>1 自分の心や体の健康に関心を持ち、課題解決に向けて実践できる生徒を育成する。</p>	<p>① 学校評価アンケートにおける「あなたは、自分の心やからだの健康に関心を持ち、健康な生活を送るよう心がけている」に「あてはまる」と回答した生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>② 学校評価アンケートにおける「学校は生徒の安全や健康管理に十分注意している」及び「学校では健康や安全に配慮した指導が行われている」について、「あてはまる」と回答した生徒及び保護者の割合を85%以上にする。</p>	<p>① 生徒保健委員会において生徒の自主的な活動を推進し、学校全体の生徒の保健意識の向上や啓発を図るために、次の活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャボン液・消毒剤の点検・補充 ・文化祭で健康意識の啓発展示 ・保健ホームルーム活動 ・保健だよりのポイント説明・配布 <p>② 生徒の心身の健康管理及び保健指導の充実を図るために、次の活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりを年間10回以上発行する。 ・応急処置を適切に行うとともに、担任や特別活動課、保健体育科等との連携をさらに密にする。
<p>2 生徒が心身ともにはつらつとした学校生活を送れるよう支援する。</p>	<p>① カウンセリングデーの相談室待機を100%にする。</p> <p>② 不登校傾向にある生徒や気になる生徒を早期に把握して、カウンセリングの実施等の適切な支援を図る。</p> <p>③ 不応の症状が見受けられる生徒の把握に努め、早い段階で校内の関係者との連携を図り、対応に努める。</p> <p>④ 特別支援教育の取組を保護者に説明する機会を持つ。</p>	<p>① カウンセリングデーの広報を積極的に行う。</p> <p>② (ア)課内会議やケース会議を随時開催する。</p> <p>② (イ)必要に応じてスクールカウンセラーや関係機関との連携を図る。</p> <p>③ 担任・学年団や人権教育課からの情報収集に努め、共通理解を図り、生徒の支援をする。</p>

<p>3 生徒が充実した学校生活を送れるよう支援する。</p> 	<p>①食堂の営業やパン販売の連絡を100%正確に行い、マナーを守って利用できるようにする。 ②セミナーハウスを正しく利用できた割合を90%以上にする。 ③奨学金の事務処理を正確に行い、奨学金を申請する生徒の100%が正しく申し込み、進路実現に繋がられるようにする。 ④福祉的な募金活動に年2回以上協力する。</p>	<p>①営業日やメニューの教室掲示を適切に行う。 ②(ア)定期的に点検を行い、厚生委員による大掃除を年2回実施する。 ②(イ)「利用心得」を掲示することで、使用の際のマナーの向上を図る。 ②(ウ)チェックリストを点検時に活用する。 ③(ア)奨学金の情報提供や連絡を正確に行う。 ③(イ)個人情報の含まれる書類の取り扱いに十分注意を払う。 ③(ウ)申請書類を複数体制でチェックする。 ④厚生委員の活動として計画する</p>
---	--	--

6 環境・防災教育（環境・防災課）

重点目標	評価指標	活動計画
<p>1 SDGsへの理解を深め、校内外の環境美化及び環境問題に取り組む態度と実践力を育成する。</p>	<p>①節電・節水を意識した学校生活を送り、前年度比2%使用量を節減する。 ②年間3回以上「ゴミゼロの日」を設定し、学校全体で環境問題について考えさせるとともに、環境・防災委員以外の参加者が毎回60人以上である。 ③アンケートで「日々の清掃に熱心に取り組む、ゴミの分別を心がけるなど校内美化に協力している」と回答した生徒の割合が85%以上である。</p>	<p>①掲示物や環境・防災委員からの声かけ等により、トイレでの日中の節電や移動教室時の消灯、節水の徹底を呼びかける。 ②校内及び学校周辺、勝瑞駅等の清掃ボランティア活動を、環境・防災委員や部活動生徒が中心となって積極的に行う。 ③積極的な案内を行い参加を募る。またその時の感想や体験談を各クラスに知らせる。 ④総合的な学習(探究)の時間で、SDGsへの関心を高めるとともに知識を深め、身近な環境問題に取り組ませる。</p>
<p>2 防災教育を推進し、身近に潜む危険から自らを守るのみならず、災害発生時及び事後に、進んで他の人々や地域の安全に役立つことができる人材を育成する。</p>	<p>①地震・津波及び地震・火災対応避難訓練を、それぞれ年1回早期に実施する。 ②環境・防災委員から啓発放送等を行い、防災に対する意識を高める。 ③校外で行われる防災関係の行事を案内し、15名以上の参加者である。</p>	<p>①学校行事やホームルーム活動の時間を利用し、専門家の講演やDVD等の防災教材により、様々な危険や災害に、自主的に対応できるよう防災意識の向上を図る。</p> 

7 国際理解教育（国際交流課）

重点目標	評価指標	活動計画
<p>1 徳島北高校において様々な国際交流を提供し、グローバルマインドを持った生徒を育てる。</p>	<p>①異文化学習の機会を年間3回以上提供する。</p>	<p>①外部より講師等を招いて、グローバルな視点に立った考え方を受容するとともに、発信の練習をする。 ②海外からの訪問団を積極的に受け入れ、国際英語科、普通科ともに多くの生徒との交流の機会を計画する。 ③海外高校生とのICT交流を通して異文化理解を深める。</p>
<p>2 校外において豊かな国際交流の機会を提供し、グローバルマインドを持った生徒を育てる。</p>	<p>①海外研修(語学研修・派遣を含む)の参加者を50名以上にする。</p>	<p>①より安全にプログラムを遂行するために、県や現地との連携を密にし、情報収集に努める。 ②海外研修の説明会など情報提供を充実させる。 ③事前指導を3回以上実施し、より充実した体験ができるよう準備する。</p>

8 読書啓発（図書課）

重点目標	評価指標	活動計画
<p>1 図書館の利用をとおり、学力の基盤となる読書習慣の育成を図り、将来にわたって主体的に学ぶ態度や読書を楽しむ態度を身につけさせる。</p> 	<p>①一人当たりの図書館の年間利用回数が、8.0回以上である。 ②授業での図書館利用が、年間80回以上である。 ③各教科や総合的な学習(探究)の時間に、図書館を利用した授業や図書館の本を活用した授業を推進する働きかけを学期に1回する。</p>	<p>①(ア)各生徒の進路に応じて読んでおくべき本や、楽しめたり、教養を養える本を充実させ、「図書館だより」・「新着図書案内」を館内・館外掲示で広報する。また、各テーマの企画展示や特集など、わかりやすい館内・館外展示を工夫する。 ①(イ)ホームページに掲載できる情報を提供し、より多くの生徒達に学校図書館に関心を持ってもらう。 ①(ウ)ピブリオバトルや読書会、図書館展示等の図書課や図書委員会主催の企画を広報し、多くの人に参加してもらい、来館してもらう。 ②(ア)各教科の教職員に、授業に活用したい本や生徒に読ませたい本の購入希望図書カードを配付して、図書の利用の推進を図る。 ②(イ)図書館を利用した授業を、国語科・総合的な学習(探究)の時間をはじめ各教科と連携して計画し、読書活動や調べ学習を推進する。 ③(ア)図書館の利用状況、貸出状況を「図書館だより」等で教職員や生徒に適宜知らせ、読書活動の活性化を図る。 ③(イ)貸出の少ないクラスには、学年・クラス・教科等からの組織的な対応を依頼する。</p>

		③(ウ)長期延滞者に対しては、丁寧に粘り強い指導をして改善を図り、継続的な貸出につなげる。
2 生徒が新聞記事を読み活用するきっかけづくりをする。	①アンケートで「新聞を読み活用することは有意義であると思う。」と答えた生徒が60%以上である。 ②図書委員の協力を得て、気になる新聞記事や注目の新聞記事を月1～2回は展示する。 ③各授業者が学期に1回以上授業の中で新聞記事を活用できるよう、情報提供など、授業者をサポートする。	①新聞を読み活用しやすい図書館内の環境を整える。 ②図書委員の活動の一つとして、図書委員が選んだ新聞記事を、関連する本や資料とともに展示する。 ③新聞活用を推進し、新聞感想文を書く期間には特に切り抜き可能な新聞を図書館に置く。

9 教育活動の継続

重点目標	評価指標	活動計画
1 新型コロナウイルス感染拡大防止に努め、教育活動の充実をめざす。	①感染者等に対する偏見や差別の防止に努める。 ②授業や行事の計画を見直し効果的な実施に努める。 ③新型コロナウイルスの感染拡大防止と効果的な補習授業の計画・実施を並行して行う。 ④教職員、生徒、保護者への感染症の流行状況に応じた情報提供と感染拡大防止への適切な保健指導に努める。 ⑤教職員及び生徒がともに、感染防止等を充分意識しながら、環境衛生活動(清掃活動等)に取り組む。 ⑥テレビ会議システムや資料提供等を通して、異文化学習の機会を年間3回以上提供する。 ⑦教職員及び生徒がともに、感染防止等を充分意識しながら、図書館利用の活性化を図る。 ⑧新型コロナウイルス感染に関する正しい知識を持ち、感染拡大防止に向けて教職員・生徒が全力で取り組み、生徒全員が、目標を持って学校生活を送れるよう援助する。	①各教科の授業やホームルーム活動、学校行事等で、新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識を身に付けさせ、偏見や差別が生じないように指導する。 ②(ア)3密を防ぎ、効果的な実施ができるよう計画する。 ②(イ)オンライン講座等を利用して学習をサポートする。 ③テレビ会議システムを導入し、複数の教室で同じ講座を同時に実施するなど、時間割と教員配置を調整する。 ④(ア)検温等、日常の健康観察の徹底と手洗いの励行を推奨する。 ④(イ)教室、トイレ等の清潔の保持と消毒の実施をする。 ④(ウ)出欠状況や疾病の罹患状況、把握に努める。 ④(エ)感染症や登校への不安を抱えた生徒への適切な対応をする。 ⑤年2回の各種委員会の機会だけでなく、常時の活動や学校行事の際も委員会として協力できるようにする。 ⑥(ア)新型コロナウイルス感染症により、外部講師を招聘することが困難な場合は、テレビ会議システム等を用いて、講演会を実施する。 ⑥(イ)海外高校生や留学生とのICT交流等を通して異文化理解を深める。 ⑦ウイルス等の感染を充分意識し、窓の開放を心がけ、図書館入館時には手指の消毒を行わせ、図書室内で3密にならないよう、間隔を開けて着席するよう指導する。 ⑧(ア)家庭とのコミュニケーションを密にし、生徒一人ひとり心身の健康に留意し、素早くフォローできるように努める。 ⑧(イ)あらゆる場面を想定して、今できる学習方法について模索し、生徒の学習意欲を高める働きかけを工夫し、学年団で協力して生徒の学力保障に当たる。

「学校評価」今後の予定

5月下旬	ホームページに学校評価計画を公表
6月下旬～7月上旬	授業評価中間アンケート(本年度は中止)
12月上旬	授業評価最終アンケート・学校評価アンケート(生徒、保護者、教職員)
1月下旬～3月上旬	学校評価結果作成、学校評議員会での学校関係者評価作成
3月末	ホームページに学校評価結果を公表



徳島北高校
イメージキャラクター
はっぱちゃん

このリーフレットに対するお問合せ

徳島北高等学校 学校評価委員会

〒771-1153 徳島市応神町吉成字中ノ瀬40-6 電話 088-698-8004